

「だから忍者市宣言！！」放送スケジュール(2018年度)

月	放送期間	タイトル	概要
4月	4/16～4/22	NINJAフェスタの歴史	伊賀の春の風物詩となった伊賀上野NINJAフェスタ。伊賀市では戦後間もない頃から忍者を観光の柱として打ち出してきた。昭和38年に開かれた「忍術まつり」は、伊賀上野NINJAフェスタの原型である。一時途絶えた時期もあったが、昭和54年に復活。その後、時代とともに名称を変えながら継承し、平成14年からは中心市街地を会場とし、より地域密着型のイベントとして現在へ引き継がれている。NINJAフェスタは地元住民をはじめ様々な主体による地域ぐるみ・市民主導が特徴的な取り組みである。それが他の地域と一線を画す「忍者市」たる所以である。
5月	5/21～5/27	日本遺産への認定ストーリー	「忍びの里伊賀・甲賀～」が2017年4月に日本遺産に認定された。今や多くの人が忍者に魅せられているが、その実態はあまり知られていない。しかし、伊賀や甲賀には今も戦国時代の城館跡や忍者ゆかりの場所が残されている。その足跡を訪ねればリアルな忍者が浮かび上がり、忍者の面影を感じるだろう。
6月	6/11～6/17	百地砦跡と忍術の祖	服部氏、藤林氏と並んで「伊賀三大上忍」の一人とされている百地丹波の砦跡が喰代にある。上忍とは、忍術の秘密組織の最高に立つ人を言う。百地氏は、豪族として友生村一円を領有し権威を振るっていた。百地砦の一番高いところからはかなり遠い範囲まで一望でき、近隣の伊賀者たちが小競り合いで攻めてきても行軍を見渡せ、攻めづらい砦であったと思われる。建物は第2次天正伊賀の乱の戦火で焼失しているが、砦の西側には忍者が修行した丸型池と呼ばれる堀跡が残されている。砦の東側には高い土塁で囲まれた主郭内には百地丹波守城跡の碑などがある。隣接する青雲寺には百地家累代の墓所がある。また、砦跡には百地丹波と恋愛関係になったために本妻に殺された女性を弔った式部塚があり、ここにハサミを供え、夫や恋人との悪縁が切れるとされる「百地伝説」が伝えられている。現在は、青雲寺から百地砦跡まで散策道が整備され、地元住民らによって大切に管理されている。
7月	7/16～7/22	藤原千方と四鬼	高尾には千方窟、床並川、血首ヶ井戸がある。これらの地には、「藤原千方」という伝説上の人物が語り継がれている。「太平記」によると、藤原千方という将軍が、朝廷に背き高尾の地に立てこもり、金鬼・風鬼・水鬼・隠行鬼と呼ばれる四鬼を使って反乱を起こしたが、朝廷によって征伐されたという。この四鬼は、忍者の原型であるともされ、また、千方が籠ったとも言われる千方窟は忍者発祥の地と言われ、かつての伝説を今に伝えている。地元高尾では藤原千方伝説を広く知ってもらおうと、千方伝承会を結成している。他にも、ここには千方が敵の首を投げ入れたと伝わる「逆柳の窟穴」があり、地元住民たちによって「窟穴まつり」が開かれる。まつりには、1年に1度しか現れない自然の神秘を見ようと、毎年多くの人が訪れる。
8月	8/13～8/19	伊賀惣国一揆と天正伊賀の乱	伊賀国で起こった織田軍と伊賀惣国一揆との二度にわたる戦いとして知られる「天正伊賀の乱」。当時の伊賀は、藤林、百地、服部などの有力土豪が他の土豪をまとめて支配しており、独立国家のようなものだった。各土豪が大きな問題が生じたとき、代表を出して話し合いをする合議制を行っており、外敵が攻めてきたら、一致団結してそれを排除する掟があった。信長の次男である信雄が伊賀国に侵攻した折、伊賀惣国一揆は奇襲戦によって勝利したものの、最後に信長によって滅ぼされる。天正伊賀の乱は忍者が活躍した戦いとして、数々の小説や映画の舞台となっている。
9月	9/10～9/16	手力神社と手力の花火	伊賀には火術の使い手と言われる藤林長門守がいた。毎年10月17日に行われる東湯舟の手力神社の花火は、火の術を得意とした藤林氏が手力神社の氏子として火筒や狼煙を神社に奉納したことが始まりとされ、現在も伊賀地域で一番遅い奉納花火として、地元の氏子などによって受け継がれている。また、神社には日本一重いと言われる鈴の緒などがある。
10月	10/8～10/14	修験道の寺と役行者	修験道の寺院として建立された上野西日向町にある松本院。この寺には、藩主藤堂高虎から病氣平癒の報謝として能面が下されたとされている。上野天神祭の鬼行列はこの能面をかぶって練り歩いたことに始まり、現在の鬼行列に発展したと伝えられている。
11月	11/5～11/11	忍者ゆかりの宮・敢國神社	敢國神社に伝わる黒党祭は、服部一族の私的な祭りと考えられ、その起源は定かではないが、神事に携わるものは服部一族に限られ、黒装束を身に付ける慣わしであったと伝えられている。また、神社の祭礼は土豪たちが運営し、祭礼を通じて伊賀衆や惣国一揆の結集の場としての役割を果たしていた。毎年11月23日に神社で行われる黒党祭には、黒い装束を身に付けた忍者が武術を披露するなど、その名残は現代にも息づいている。

窟穴まつり7/29

月	放送期間	タイトル	概要
12月	12/17～12/23	霊山山頂遺跡に残る忍者の足跡	霊山山頂遺跡は、標高765.8メートルの霊山山頂にある約1万1,200平方メートルの面積を持つ一大寺院の跡である。寺は天台宗の開祖である最澄が創建したとされる。山頂の南の斜面に広がる郭群では、建物や加熱の痕跡と思われる石列や、井戸跡が発見されている。また、その西方にある中世墓群では、多くの墓石が散在し、骨壺も確認されている。多くの人々が、この山頂で生活し、修行していたことがうかがえる。霊山山頂遺跡は県指定文化財に指定されている。現在の霊山は <b>自然歩道</b> が整備され、気軽に <b>行ける</b> 人気の登山スポットとなっている。訪れる人は大自然と歴史の両方に魅了されるだろう。
1月	1/14～1/20	家康の「伊賀越え」と伊賀者	徳永寺は、本能寺の変の折、徳川家康が泉州堺から三河に帰国の途中、俗に言う「神君伊賀越え」の際、休憩に立ち寄ったとされる寺である。このとき、地侍らが不眠の警護をしたとされる。家康はそのお礼に田畑や山林を与え、徳川家の葵紋の使用も許されたとされている。こうして家康の生涯において大きなピンチを救った服部半蔵をはじめ多くの伊賀者は、この「伊賀越え」以来、家康に召し抱えられ衷心を尽くしたとされる。
2月	2/18～2/24	伊賀者が住んでいた町・忍町	「忍町」は、江戸時代、藤堂藩に仕える伊賀者の屋敷があった場所である。江戸時代の絵図には、伊賀者10人ほどの名前が記された伊賀者の屋敷と、その周辺には重臣の下屋敷や中級武士の屋敷が多くあったことが分かる様子が描かれている。
3月	3/18～3/24	忍者の道具	忍者は任務のない日は、周りに怪しまれないようにするため普段は農民と同じ生活をしていた。街道を歩くときは民衆・農民の装束や、薬売り、山伏など、その場に合った装束を身にまとい、闇に紛れ暮らしていた。伊賀流忍者博物館には、当時使われていた数々の武器が展示されている。中でも忍者の代表的な武器である手裏剣は、形、使い方に様々な工夫が施されている。